

食事療法と免疫治療で乳がんが縮小？

がん治療というと、一般的には手術や化学療法、放射線療法など公的保険の対象となる標準治療を思い浮かべます。しかし栄養療法や免疫療法、標準治療との併用などで病状の改善を図れる場合も少なくありません。今回は、手術や抗がん剤治療をしないで、栄養と免疫療法を希望して状態の改善が見られた患者さんのケースを紹介します。



今から7年ほど前、首都圏に住む50代の主婦が「胸に大きなしこりがある」と、当時私が務めていた病院を訪れました。別の病院で乳がんと診断され、すでに皮膚にまでがんが浸潤し、外から確認できる状態でした。腫瘍は6センチ×4.5センチと大きく、ステージは3bでリンパ節に転移していました。

転移も疑われ、通常なら手術をして、術後に抗がん剤治療をして進行を抑えるのが一般的です。しかし女性は「抗がん剤の副作用が怖いし、手術で乳房を切除するのも嫌なので標準治療は選択したくない」と訴えます。結果、私が当時、進めていた免疫療法を希望したいと言ってきたのでした。

女性は身長160センチほどで、体は肥満気味の方でした。聞けば、パンや白米が大好きで、そればかりか30数年間にわたって間食の習慣から抜け出せず、炭水化物の過剰摂取で、体に必要な栄養が行き渡っていない印象です。「先の人生を考えて、食事や栄養を見直してみませんか」と、私は女性に栄養改善を提案します。しかし女性は、長年の間食習慣から抜け出せず

「私の友達も炭水化物の過剰摂取だけど、がんではない」と、糖質制限には消極的でした。

変化があったのは、治療を始めて2か月目からでした。当時は、ボタニック・ラボトリーと出会う前で、栄養を専門に研究したわけでもありません。しかしがん治療に、食事や栄養療法が必要だと感じていました。そこで、女性に5つの食事療法を提案したのです。

- ①炭水化物や糖質の制限。
- ②肉や魚などのタンパク質を多く摂る。
- ③脂を変える。サラダ油は避け、オリーブオイルなど植物性の油を中心にします。
- ④抗酸化食品、抗炎症性食品を多く摂る。ほうれんそう、キャベツ、レタス、にんじん、玉ねぎ、玉ねぎの皮の粉末、根菜系。これらが食事の半分にする。
- ⑤亜鉛を摂る。例えばキノコを毎日、大さじ一杯。豆乳に混ぜるか、食事に振りかけてとる。

一方、体の免疫細胞を活性化させて、がんを治療する免疫療法を併用。さらに、抗酸化・抗炎症作用がある高濃度ビタミンC療法を取り入れます。結果、治療から3ヶ月後、がんは30%縮小。しかし一旦、ビタミンC療法を休止したこともあって、6ヶ月後、小さくなったがんが徐々に活発になり始めます。

私は、再びビタミンC療法を始めることを勧め、炭水化物や糖質の制限をさらに徹底しました。その頃から女性の意識が変わりはじめ、治療からほぼ1年後、体積的にがんは当初の半分まで縮小したのです。栄養療法と免疫療法の併用で改善が見られ、ようやく次のステップへ進むことができました。

栄養療法を実践する中で、マインドの変化が改善につながったといえます。(つづく)

あきやましんいちろう
秋山 真一郎



医師・医学博士、カナダマギル大学臨床腫瘍学客員教授。NPO法人がんコントロール協会理事。がん免疫治療と植物栄養素を中心とした免疫栄養療法など、副作用のない多角的療法で成果を上げている。